

第524回IBC番組審議会

1. 開催日時 平成19年10月24日(水)
2. 開催場所 デジタルセンター3F Dホール
3. 委員の出席
- | | | |
|---------|-------|-------|
| 委員数 | 11名 | |
| 出席委員 | 7名 | |
| 出席委員の氏名 | | |
| 委員長 | 田代 高章 | |
| 副委員長 | 宮澤 徳雄 | |
| 委員 | 伊藤 支店 | 大村友貴美 |
| | 工藤 和彦 | 熊谷志衣子 |
| | 澤口たまみ | |
| 欠席委員の氏名 | 河村 泰信 | 小林 英男 |
| | 小松 務 | 矢佐 俊幸 |
- 会社側出席者
- | | |
|-------|----------|
| 阿部 正樹 | 代表取締役社長 |
| 川島 敬司 | 常務取締役 |
| 柴田 継家 | 報道局長 |
| 川上 隆 | ラジオセンター長 |
| 鎌田 英樹 | テレビ編成局長 |
| 平澤 泰志 | 報道部記者 |
- 事務局
- | | |
|-------|------------|
| 馬場由紀子 | 番組審議会事務局長 |
| 小笠原 勉 | 番組審議会事務局次長 |
4. 議題 IBCテレビ防災スペシャル番組
『伝えよう!カスリン・アイオン台風60年
~忘れまい!先人達の努力と勇気~』

5 . 議事の概要

< 委員の主な発言 >

- ・ 実際に体験した人の証言が少し長い感じがした。要点をまとめてナレーション処理する工夫をしてもよかった。
- ・ パネルディスカッションは有識者の方々だけあって、わかりやすく興味深く聞くことができた。
- ・ 明治、昭和の三陸津波に次ぐ岩手県にとっては大きな、内陸部で言えば最大の被害があったわけですから、60年経った今、風化しつつある記憶を伝えようという番組として非常に意義あるテーマだったと思う。
- ・ 70代の方々が当時を体験した最後の世代であるなら、今しっかりと伝えておかなければならない。その営みを一関ではどのように続けてきたのか、どう実を結んできたのか。それが行政を動かすことにもつながってきたのか、いろいろな側面から取り上げ方の工夫があると思いますが、その辺りの焦点がはっきりしない感じがした。
- ・ 三陸津波の宮古などは毎年のように避難訓練をやっていてテレビでも紹介されますが、一関あたりでもやってはいるのでしょうかそれほど注目されていない気がします。この番組をきっかけにクローズアップされていけばいいと感じた。

< 社側 >

- ・ 今回の番組はカスリン・アイオン台風から60年ということで、次第に証言する人が少なくなっている。記憶を伝えるべき人が年々減っていく中で、まず当時の証言を語る人の記録として残しておきたいというのが第一にありました。
- ・ 災害を体験したという過去の記録を見ると、私も涙が出てくることもありましたが、そこを十分伝えなかったのですが、整理の仕方等に不十分な点があったと反省しています。

住民になぜ河川に興味を持たなければならないかということを知ってもらえる番組を作るべきで、これからも継続していきたいと思っております。